

史跡 船岡山

船岡山は平安京造営の際、四神相應の玄武の地とされました。平安時代は景勝、遊興の地で、後に葬送の地となり、中世には山城が築かれ、応仁・文明の乱(1467-1477)では西軍の陣が置かれました。山頂からは市内の景色が見晴れます。



山頂から南の京都市内を望む

【四神相應】 平安京は中国の風水思想で造営されたと言われています。玄武(北に山)、白虎(西に大道)、青龍(東に川)、朱雀(南に湖沼)がある地形を四神相應の地と言ひ、京都はその条件に当てはまっています。

1 首途八幡宮 平安宮の北東にあたり、王城鎮護の神とされ、内野八幡宮とも呼ばれました。「首途」は出発を意味します。牛若丸がここで安全祈願をし、共に奥州へ旅立ったとされる金売吉次(かねうりきちじ)の屋敷跡とも言われています。

2 本隆寺 本堂は天明の大火などを免れ、「不焼寺(やけずのてら)」とも呼ばれます。西陣五水の「千代の井」や「夜泣き止めの松」などがあります。

3 雨宝院(西陣聖天宮) 空海の開基。「西陣の聖天(しょうてん)さん」で知られる花の寺です。境内には西陣五水の「染殿井(そめどのい)」、「歡喜桜(くわんぎざくら)」や「時雨松」などがあります。

4 櫛谷七野神社 本堂(釈迦堂)は洛中最古の仏堂建築で国宝です。多くの優れた文化財や仏像があります。上様式に使われる棟札のおかめにまつわる伝説が残し、境内の「阿亀(おかめ)桜」は花時に見事な姿となる枝垂の桜です。

文徳天皇の皇后明子(あきらいけい)が安産祈願で奈良春日明神を勧請。平安時代から鎌倉時代にかけて、賀茂社に奉仕した斎王の御所「紫野斎院」跡でもあります。「葵祭」では斎王代の献茶が行われます。

5 建勲神社



織田信長の偉勲を称え、明治天皇が創建。「けんくんじんじや」とも呼ばれます。境内から見る東山の景色は絶景です。一の鳥居は府下最大の紅た檜(へにひのき)の素木(しらき)造りです。

6 上品蓮台寺



葬送の地、蓮台野にある聖徳太子創建といわれる真言宗の寺。境内には定朝(じやうちやう)の墓や源頼光の蜘蛛塚があります。

7 引接寺(千本ゑんま堂)



開基は小野篁。本尊は閻魔王像で「千本ゑんま堂」と呼ばれます。古来より精霊迎への霊場として参詣者で賑います。紫式部の供養塔・多重石塔(重要文化財)や普賢(ふげん)桜、京大三念仏狂言の一つ、「ゑんま堂狂言(市登録無形民俗文化財)」などがあります。

8 石像寺(釘抜地蔵)



空海の開基。「釘抜地蔵」として知られています。「苦抜き」の云われから病氣平癒の祈願者が多く、墓地には藤原定家、家隆の供養塔があります。

9 大報恩寺(千本釈迦堂)



本堂(釈迦堂)は洛中最古の仏堂建築で国宝です。多くの優れた文化財や仏像があります。上様式に使われる棟札のおかめにまつわる伝説が残し、境内の「阿亀(おかめ)桜」は花時に見事な姿となる枝垂の桜です。

10 般舟院陵



後花園天皇、後土御門天皇(ごつちみかど)、後奈良天皇の分骨所と御柏原天皇の母・源朝子をはじめとする供養塔が安置されています。隣に式子(しやくし)内親王の墓と伝えられる塚があります。(平日見学可)

本法寺境内のサクラ

千本紫野西陣

平安京・平安宮は、船岡山を北にして、大内裏(平安宮)を一条通から二条通間に設け、幅84mの朱雀大路が南に羅城門に向けて中心を貫くようにして造営されました。千本通界隈は都から北の葬送の地への道筋にもなり、後に千本の卒塔婆が立ったことが名の由来ともいいます。この辺りは歴史と伝説のある寺院が多く、見所に恵まれています。また、地名となる紫野界隈は淳和天皇の離宮である紫野院(雲林院)があった平安貴族の遊興の地でもあり、雅な雰囲気のあるところです。雲林院の北西に大徳寺が創建されて織田信長の葬儀が行われるなど、多くの歴史の舞台となりました。千本、船岡山、大徳寺、茶道家元のある小川通・寺之内を巡り、地元に残る歴史と伝説の多い見所をご紹介します。



サクラの名所—紅葉の名所

Main map showing routes (西ルート, 東ルート), landmarks (大徳寺, 雲林院, etc.), and detailed callouts for specific sites like 牛若丸(御浄の橋)伝説 and 山名宗全邸宅跡.

大徳寺

鎌倉時代末期に建立の禅宗寺院。22の塔頭と二つの別院をもちます。千利休が参禅し、茶の湯にも縁が深く、大徳寺の茶面(ちやづら)と称されました。かつて秀吉により織田信長の葬儀が盛大に行われました。写真は、利休の切腹の発端となったともいわれる、三門「金毛閣」(重要文化財)です。常時拝観可能な塔頭は龍源院、瑞峯院、大仙院、高桐院です。



金毛閣(重要文化財)



茶室「松向軒」



忠興・ガラシャの石灯籠

高桐院(大徳寺塔頭)

細川忠興(三斎)が父顯隆の菩提を弔うため建立(1590)創建した寺。寺の西にある石灯籠は忠興と妻ガラシャの墓塔で、客殿裏には千利休の屋敷を移したという書院「意北軒」があり、北野大茶会(1587)の折の茶席という「松向軒(しょうこうけん)」などがあります。

1 鳴虎 報恩寺



聚楽第で毎夜鳴いたという寺宝の「鳴虎図」は寅年の正月三ヶ月のみ、特別公開されます。伝説の「撞かすの鐘」(重要文化財)があり、また、黒田長政の住生の地でもあります。

6 玄武神社



社名は平安京の北面を守護する四神の玄武神として名付けられました。文徳天皇の皇子の惟喬(これたか)親王を祀り、別名「惟喬社(これたかのやしら)」とも呼ばれます。

2 慈受院門跡(薄雲御所)



慈受院に併合(1919)された総持院(薄雲御所)が、もと藤原道長の法成寺跡に源氏物語ゆかりの寺とされています。(非公開寺院)

3 本法寺



本阿弥家の菩提寺で書院の前には光悦作の「三つ巴の庭(名勝)」があります。また長谷川等伯ゆかりの寺としても知られ、等伯筆の大涅槃図(重要文化財)が毎年春には特別公開されます。

4 水火天満宮



水難火難を鎮めるために、醍醐天皇の勅願により、道真の神霊を勧請して建立されました。境内には「菅公登天石(かんこうとうてんせき)」の他、「出世石」などがあります。

5 紫式部の墓(小野篁の墓)



雲林院の東南に、室町時代の古文書に載る紫式部の墓が小野篁の墓の隣にあります。墓石は新しいものです。

7 雲林院



大徳寺の境外塔頭。淳和天皇の広大な離宮「紫野院」がこの辺りにあり、後に僧正遍昭が入寺(869)して雲林院という官寺になります。鎌倉時代に雲林院の北西に大徳寺が建立されました。大徳寺開山の大灯国師像を安置します。『源氏物語』第十帖「賢木(さかき)」に雲林院が登場します。

8 今宮神社



平安時代初期に疫病祓いのため当地に祀られた鎮守が始まりとされ、1001年の疫病流行で本社が造営されて今宮と号されました。疫病の神として信仰厚く、4月の開花時に行われる病鎮めの「やすらい祭」は京都の奇祭の一つとして知られます。

千本 紫野 西陣



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

千本 紫野 西陣周辺の発掘調査

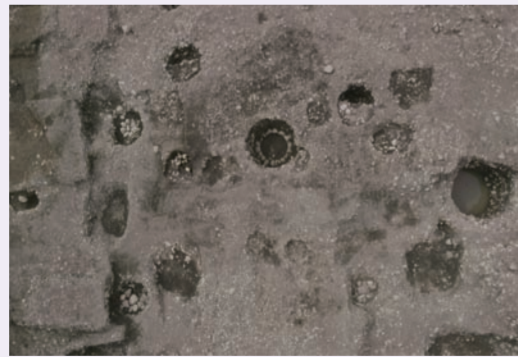
千本 紫野 西陣は京都市の上京区と北区に位置しています。千本地区には市街地西部の南北幹線道路である千本通が通っています。名前の由来は承久年間（1219～22）船岡山西麓にあった葬送の地、蓮台野へ至る道に供養のため千本の卒塔婆を建てたことによると云われています。今出川通以北の千本通付近には、平安時代から中世に創建されたとされる寺院が今も点在しています。その一つである大報恩寺では旧境内跡の発掘調査が行われ、戦国時代の大規模な堀跡が発見されました。紫野地区は平安京の北にあたり、淳和天皇はこの地に離宮・紫野院を建て、その後は寺院化され雲林院（うりんいん）となりました。雲林院跡の発掘調査では平安時代前期の苑池跡や建物跡などが発見されました。また雲林院跡の北西側に広がる鎌倉時代後期に建てられた禅宗寺院大徳寺旧境内の発掘調査では、子院内の区画を示す堀跡などが発見されました。西陣地区は智恵光院通から寺町通に至る一条通以北に、室町時代の将軍家の御所や公家、武家の屋敷、寺院などが建てられ市街地が形成された上京遺跡があります。これまでに御所の室町殿跡（花の御所跡）の発掘調査が数回行われ、近年では、細川家の邸宅跡や本阿弥家所領地跡などで発掘調査がおこなわれ、西陣地区では様々な成果が上がっています。

5 雲林院跡

元は淳和天皇の離宮「紫野院」跡です。天長九年（832）に雲林亭と名付けられ、元慶八年（884）には官寺となり雲林院と改められました。その後、衰退して廃寺となり後醍醐天皇在位（1318～1339）の時、跡地は大徳寺にあたえられました。現在の雲林院は江戸時代初期に雲林院跡西部の一面に再建されています。2000年に雲林院跡の東部で発掘調査が行われ、平安時代前期の苑池と釣殿風の建物跡が発見され、軒瓦や土器などが見つかっています。



平安時代の庭園の池跡と建物跡



平安時代の建物跡と井戸跡



出土した平安時代の土器
(写真提供 京都府京都市文化博物館)

1～4 上京遺跡

上京遺跡は、室町幕府の御所や公家の邸宅、武家屋敷が建ち並ぶ中世の都市遺跡として2003年に新たに登録された遺跡です。遺跡の範囲は、東は相国寺境内、西は智恵光院通、南は一条通、北は上御霊（かみごりょう）前通に囲まれた範囲です。その中で、永徳元年（1381）足利義満により造営された室町殿跡（花の御所跡）など一部は上京遺跡登録以前に重要遺跡として登録されていました。室町殿跡では1986・89年の発掘調査で庭園に伴う景石や築山が発見されています。また、築地の基礎とみられる石敷きも見つかっています。上京遺跡として初めての発掘調査は、2004年に表千家不審菴（ふしんあん）の敷地で行われた細川典厩（てんぎゅう）家の邸宅跡の発掘調査でした。典厩家は細川家の嫡家で、代々右馬頭（うまのかみ）を官職としたので、馬寮（めりょう）の唐名「典厩」と称されました。調査では室町時代後期の井戸、塀、土坑などが発見され、井戸や土坑から多くの土器や石臼、銭貨（宋銭）などが見つかりました。2010年の堀川通西側の発掘調査では、室町時代と江戸時代の溝や井戸などが発見され、土器や瓦なども多量に見つかり、絵図史料などから本阿弥家所領地跡とみられています。2011年には遺跡南西部にあたる元誓願寺通沿いの大宮通東で発掘調査が行われ、平安時代前期から江戸時代の溝・井戸・堀跡などを発見し、多くの輸入陶磁器や茶陶なども見つかっています。

1 室町殿跡(花の御所跡)



発見された庭園跡の一部



景石を伴う庭園跡と建物跡(手前の石が景石)



花の御所跡石碑(大聖寺境内) 花の御所跡石碑(室町今出川角)

2 細川典厩家跡



室町時代の溝跡や櫓列と井戸跡

6 大徳寺旧境内

大徳寺は、鎌倉時代の元応元年（1315）に創建された禅宗寺院です。後醍醐天皇や豊臣秀吉の保護を受け寺域を拡大し、伽藍が整えられました。15世紀後半の応仁・文明の乱により焼失しましたが、一休宗純（いっしゅうそうじゅん）により再建されました。2008年に大徳寺境内の玉林院本堂で発掘調査が行われました。玉林院は大徳寺の子院の一つで、慶長八年（1603）に創建されましたが、慶長十四年（1609）に焼失し、慶長十八年（1613）に再建されました。発掘調査では江戸時代の堀跡や平安時代の土坑などが発見されました。江戸時代の堀跡は元和年間（1615～1624）に作成された「玉林院古図」に描かれた本堂の玄関に取り付け堀とみられています。平安時代の土坑は当地が雲林院跡地であったことによります。



東西方向に延びる江戸時代の堀跡



江戸時代の堀跡と門跡(手前の石積みが門の基礎)

7 大報恩寺(千本釈迦堂)境内

承久三年（1221）、藤原秀衡（ひでひら）の孫・義空（ぎくう）上人が小堂を構えたのに始まります。通称、千本釈迦堂の名で知られています。応仁・文明の乱で諸堂が焼失しましたが、本堂は残り、市内に現存する最古の木造建築物として国宝に指定されています。2005年に旧境内推定地の西部で発掘調査が行われ、戦国時代の大規模な堀跡や墓跡が発見されました。この堀跡は、旧境内の西限を区画する堀跡とみられています。また、奈良時代の土器が見つかっており、大報恩寺建立以前の遺跡の存在も窺われます。



発掘調査の様子



戦国時代の堀跡



墓跡とみられる瓦と礫が詰まった穴
(写真提供 古代文化調査会)

3 本阿弥家所領地跡



室町時代から江戸時代の柱穴や溝跡



室町時代の櫓跡(壁際に等間隔に柱穴が並ぶ)



江戸時代の溝と礎石跡

4 上京区元誓願寺通大宮東



発掘調査の様子



平安時代後期の土器などが捨てられた穴



室町時代の断面形状がV字状の茶研堀跡



千本 紫野 西陣に関する発掘調査地の位置図



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

